

## 経営分析表【水道事業】

区 分		秦野市 (30年度)	秦野市 (29年度)	全国平均 (29年度)	算 式
構 成 比 率	(1) 固定資産構成比率 (%)	89.73	90.27	88.59	固定資産／(固定資産＋流動資産＋繰延資産) * 100 総資産における固定資産の割合。指数が高いほど資本は固定化の傾向にあるため、低いほど良い。
	(2) 固定負債構成比率 (%)	29.59	30.75	24.99	固定負債／負債・資本合計 * 100 総資本とこれを構成する他人資本の関係を示す。指数が低いほど経営の安全性が高いといえる。
	(3) 自己資本構成比率 (%)	67.15	65.63	70.69	(資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益)／負債・資本合計 * 100 総資本とこれを構成する自己資本の関係を示す。比率が高いほど経営の安全性は大きい。
財 務 比 率	(4) 固定資産対長期資本比率 (%)	92.77	93.66	92.59	固定資産／(資本金＋剰余金＋評価差額等＋固定負債＋繰延収益) * 100 比率は100%以下が望ましい。超える場合は固定資産に過大投資といえる。
	(5) 固定比率 (%)	133.65	137.55	125.32	固定資産／(資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益) * 100 固定資産は自己資本から調達されるべきとする企業会計上の原則から100%以下が理想である。
	(6) 流動比率 (%)	313.64	268.66	264.34	流動資産／流動負債 * 100 短期債務に対応すべき流動資産が十分にあるかを示す。比率は200%以上が望ましい。
	(7) 当座比率 (%)	289.36	256.13	250.92	(現金預金＋(未収金－貸倒引当金))／流動負債 * 100 短期債務に対応すべき現金預金及び容易に現金化できる未収金が十分あるかを示す。比率は100%以上が望ましい。
収 益 率	(8) 総資本利益率 (%)	1.55	1.54	1.31	当年度経常利益／((期首負債・資本合計＋期末負債・資本合計)/2)*100 投下された資本総額とそれによってもたらされた利益とを比較したもの。指数は高いほど良い。
	(9) 営業収支比率 (%)	108.46	109.56	106.03	(営業収益－受託工事収益)／(営業費用－受託工事費用) * 100 営業費用に対する営業収益の割合で、指数は高いほど良い。
	(10) 経常収支比率 (%)	114.82	114.78	113.39	(営業収益＋営業外収益)／(営業費用＋営業外費用) * 100 経常費用に対する経常収益の割合で、指数は高いほど良い。
	(11) 総収支比率 (%)	115.13	114.83	113.24	総収益／総費用 * 100 総費用に対する総収益の割合で、指数は高いほど良い。
そ の 他	(12) 料金収入に対する職員給与費 (%)	9.29	9.35	12.13	(職員給与費－受託工事費)／給水収益 * 100 給水収益に対する職員給与費の割合を示す。
	(13) 料金収入に対する企業債利息 (%)	6.23	6.67	5.39	企業債利息／給水収益 * 100 給水収益に対する企業債利息の割合を示す。
	(14) 料金収入に対する企業債元金 (%)	21.83	20.64	19.43	企業債元金／給水収益 * 100 給水収益に対する企業債元金の割合を示す。
	(15) 職員1人当たり営業収益 (千円)	81,745	87,809	71,071	(営業収益－受託工事収益)／損益勘定職員数 労働生産性を示す指標。指数は高いほど良い。
	(16) 負荷率 (%)	90.51	92.14	87.52	一日平均配水量／一日最大配水量 * 100 最大給水量に対する平均給水量の割合で、需要時を非需要時の差を示す。100%に近づくのが理想である。
	(17) 施設利用率 (%)	55.75	56.46	60.41	一日平均配水量／一日配水能力 * 100 配水能力に対する平均給水量の割合で、水道施設が効率的に運営されているか判断する指標。指数が高ければ効率的に運用。
	(18) 最大稼働率 (%)	61.59	61.28	69.02	一日最大配水量／一日配水能力 * 100 配水能力に対する最大給水量の割合で、指数が低いほど能力に余裕があることを示す。
	(19) 有収率 (%)	93.63	93.64	89.93	年間総有収水量／年間総配水量 * 100 年間給水量に対し、どのくらいの年間有収水量があったかを示す。100%に近いことが望ましい。
	(20) 配水管使用効率 (m <sup>3</sup> /m)	27.34	27.78	20.92	年間総配水量／導送配水管延長 導・送配水管の敷設延長に対する年間総配水量の割合であり、比率が高いほど施設効率は高くなる。
	(21) 固定資産使用効率 (m <sup>3</sup> /万円)	10.11	10.11	6.98	年間総配水量／有形固定資産 有形固定資産に対する年間総配水水量の割合であり、比率が高いほど施設が効率的であることを示す。

※全国平均は、「水道事業経営指標」(総務省ホームページ)より作成。